

ダルニー通信

特集

民際センターを支えている支援者の方々

084

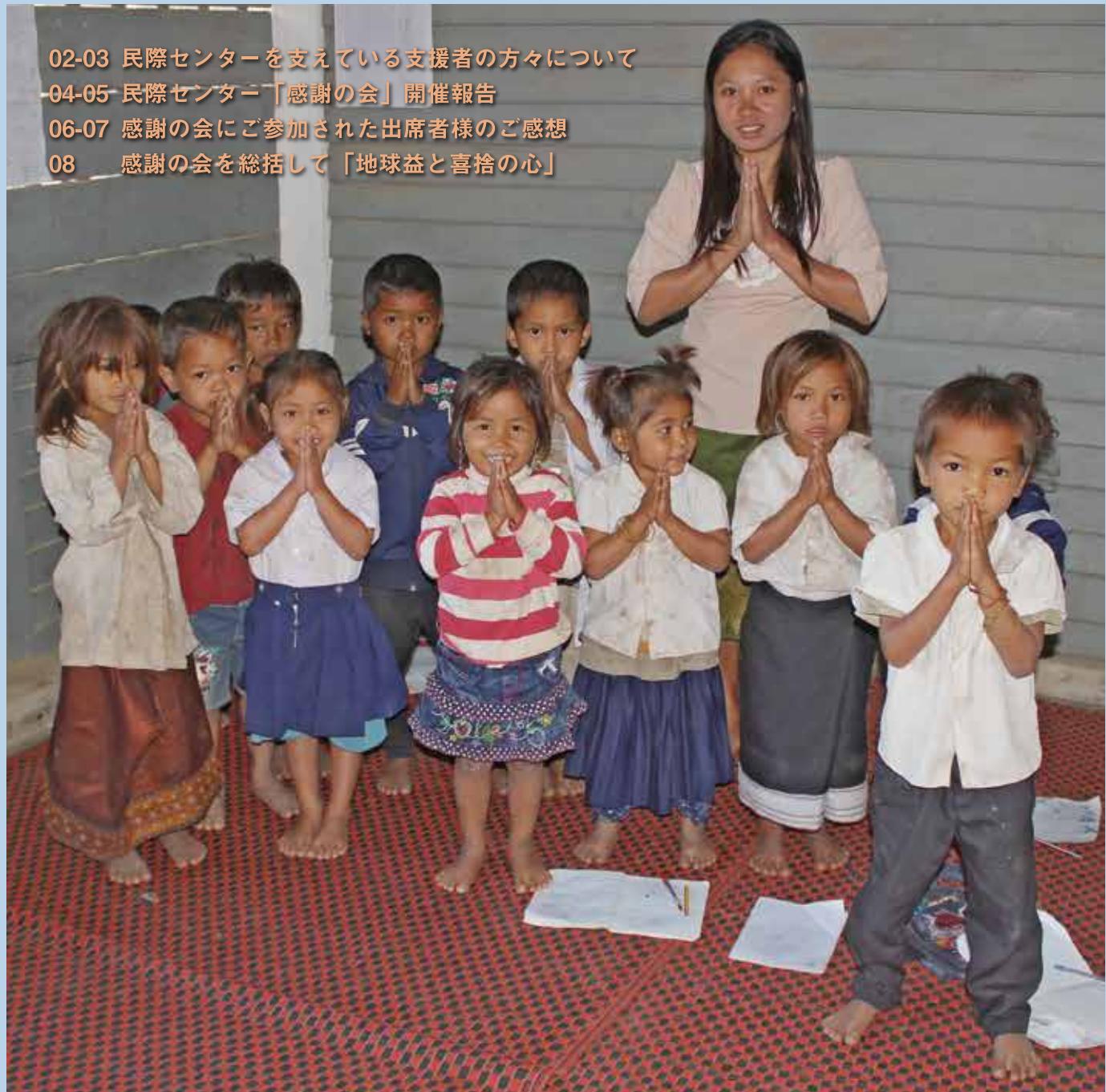
2019 SUMMER

02-03 民際センターを支えている支援者の方々について

04-05 民際センター「感謝の会」開催報告

06-07 感謝の会にご参加された出席者様のご感想

08 感謝の会を総括して「地球益と喜捨の心」



09-10

ドナー紹介 (MS&AD軽音楽部・MS&ADゆにぞんスマイルクラブ、福岡ダルニー連絡会)

11

子どもたちの様子

民際センターを支えている支援者の方々について

1987年の設立以来、民際センターは今年で32年目を迎えました。設立から一貫した教育支援活動で、メコン地域5か国の貧しい家庭の子どもたち、延べ約40万人の小・中・高等学校就学を実現しています。各国別では、タイの小・中・高校合わせて28万人、ラオスの小・中学校合わせて10万人、カンボジアでは、小・中学校合わせて1万6千人、ベトナムの中学校で2千人、ミャンマーの中学校で2千人(いずれも延べ約・人/2017年現在)になります。

現在のタイの著しい経済発展と圧倒的な親日国であるという現実に、この28万人の奨学生たちが実際にかかわっているのか知る由もありませんが、その一端を担っていたとしたら、28万人の奨学生の日本の支援者の方々は、その支援により、タイの貧困削減と平和構築に寄与していて、まさに民際センターの理念の実現を実行して頂いていることになります。

それでは、この32年間にご支援頂いた皆様の人数はどうでしょうか。ご支援者の総数は、約3万6千人(2017年6月現在では、35,369名)の方にご支援を頂きました。誌面をおかりして御礼申し上げると共に、どのような方がどのくらいの期間支援されているのかなど詳細を皆様にお伝えしたいと思います。

設立以来2018年まで、一度も休むことなく30年継続して、ご支援をして頂いている方々が、22名もいらっしゃいます。その時に0歳だった子どもが30歳になるまでの長い年月を想像してみて下さい。自分自身の子どもや孫であってもなかなか出来ることではないのに、まさに平成の時代のすべてを毎年ご支援頂いていることになります。入職後まだ日が浅い時期に、このデータを確認した時、その22名の方(個人21名、法人1名)のお名前をみながら、その温かいこころと優しさに大きな感銘をうけ、大きな感動で、デスクの上にもかかわらず涙がぽろぽろと出てきたのを今でも鮮明に覚えています。

また、継続ではありませんが、総合すると21年から30年の間ご支援を頂いている方々は、個人の方・法人の方を合せて168名、21年間連続で継続支援を頂いている方は、何と個人の方で441名、法人の方で36名、合計すると477名いらっしゃいます。(表1ご参照)

表1. 支援者様の分布

単位(人)

	個人	法人 (企業・団体・学校)	合計
31年間継続支援	21	1	22
21~30年間支援(*1)	157	11	168
21年間継続支援	441	36	477
10~20年間支援(*2)	15	6	21
2016~2018年に特別な支援(*3)	10	11	21

(*1) 継続(連続)ではないが、総合すると21~30年間ご支援頂いている方々。

(*2) 継続(連続)ではないが、総合すると10~20年間ご支援頂いている方々。



© EDF-Japan

民際センターでは、ダルニー奨学金だけでなく、総合的な教育支援の一環としてさまざまなプロジェクトを実施しています。(*3)の特別なご支援とは、カンボジアにおける女子寮の建設や、ラオスの学校建設、教室建設などの高額なご支援を頂いた方々になります。



感謝状

民際センターでは、これらの700名強の方々を対象に、どうしても感謝の意を表したいという意向から、2018年11月9日に、神保町の学士会館にて‘感謝の会’を実施させて頂きました。

感謝の会の詳細に関しては、次ページ以降でご紹介いたしますが、総勢100名強の方々にご参加頂き、弊団体の職員はもとより、EDF各国の責任者、理事・評議員の方々共々この会にて感謝をお伝えさせて頂きました。感謝の会にご参加頂きましたご支援者の方や、企業の方にも本通信の次ページ以降でご挨拶を頂いております。

また、2018年には、上述のご支援者の方々以外にも5年から10年の間ご支援を頂いている方々、5か国のすべての子どもたちをご支援頂いている方々にも、ご送付で恐縮ではありますが、感謝状をお渡しさせて頂きました。

民際センターは、これらの方々に支えられてその活動を行うことが出来ています。皆様のご支援がある限り、今後も変わることなく今の活動を確実に実行していきたいと思います。さて、2019年、初めて支援した方が沢山いらっしゃいます。その方々が向う30年間休むことなくご支援されたことを想像してみました。そのころはメコン地域の状況も今とは違うかもしれませんし、日本が置かれている現状も違うかもしれません。

それでも、教育支援による貧困削減と平和の構築を目指す民際センターの理念は変わることなく実行されていて、その時の民際センター職員が、私が感じたのと同じような感動を味わうのだろうか、と考えながら本通信を書いています。しかしながら、30年後私は日本の男性の平均寿命を超えていてこの世にはいないということに気づいてしまいました(笑)。

公益財団法人 民際センター
事務局長 南谷勝典

民際センター「感謝の会」開催報告

2018年11月9日(金)に、学士会館(東京都千代田区)において、民際センター「感謝の会」を開催しました。

今回の会の目的は、永年ご支援いただいている方や特別なご支援をいただいた方にお集まりいただき、今までのご支援に対する感謝の気持ちをお伝えするとともに、最近の民際センターの動向と今後について知っていただくことを目的としたものでした。

700名余りの支援者の方に招待状をお送りし、100名を超える方に出席いただき、弊団体の理事・評議員を初め職員関係者や、タイ王国大使館公使や公益法人協会 会長などのゲストを含め総勢130名強の皆様にお集まりいただきました。直前のご案内でしたが、多くの方々に出席いただき、支援者の方々が弊団体の活動に非常に高い興味関心を頂いているのだと感じております。

当日は、二部構成の盛りだくさんの内容でした。

第一部では、

- 1.感謝の言葉(理事長 秋尾晃正)
- 2.理事・評議員を代表して支援者への思いと
感謝の言葉(評議員 元日本ペンクラブ会長
作家 阿刀田高)
- 3.感謝状の贈呈
(タイ王国大使館Mr. Cherdchai Chaivaivid
公使、評議員 エッセイスト 酒井順子)
- 4.民際センターの現状と将来について
(理事長 秋尾晃正)

の式次第で、感謝の気持ちを伝えるとともに、最近の動向を説明する内容です。

タイの元奨学生からのビデオメッセージから始まり、理事長の秋尾より、ご出席いただいた皆様に、支援に対する感謝の気持ちを伝え

させていただき、続いて、理事・評議員を代表して、阿刀田評議員よりお話を頂戴し、ご自身と弊団体とのかかわりなどについてお話をいただきました。



民際センターは、永年ご支援いただいている方、特別なご支援をいただいた方を中心に、感謝の気持ちをお伝えさせていただくために、感謝状をお送りすることとし、本来であれば来場いただいた皆様お一人お一人に会場でお渡しすべきですが、代表して6名の方に登壇いただき、感謝状の贈呈は、タイ王国大使館・公使と、エッセイストである酒井順子評議員より行われました。登壇者を代表し、細川様よりご挨拶をいただきました。事務局としても、普段お聞きすることのできない、支援者の方の声を聞くことができました。贈呈後、タイ王国大使館公使と酒井評議員より、挨拶をいただき、ダルニー奨学金を支えている支援者のことを見た公使は、謝意を伝えてくださいました。原稿に加えてご自分の言葉で話されていたのが、印象的でした。

理事長の秋尾より、民際センターの将来の展望と、2017年度と2018年度にわたる2年間の民際センターの取り組みについて紹介させていただきました。途中で事務局職員全員が登壇し、自己紹介を通じて、民際センターの事務局をより身近に感じていただけたと思います。



第二部は、立食形式の懇親会を実施しました。以前に研修旅行に一緒に行かれた支援者の方同士は、同窓会のように昔のこと振り返られ、初めて会う支援者の方は、ご自分の支援の体験を共有されました。



歓談の最中に、各国の事務所マネージャーからのビデオメッセージの上映、支援者の方（サニーサイドゴスペルクラブ横浜）によるゴスペルが披露されました。



現在の事務局体制で実施した初めての大規模な行事であったため、どうなる事かと心配でしたが、支援者の方々に満足いただけた会となったと思います。また、支援者の方々の率直な声をお聞きできるとても有意義な機会となりました。

感謝の会にご参加された出席者様のご感想

会にお越しいただきました方々から、ご参加いただいたご感想やダルニー奨学金への想いをお聞きしました。

教育の力～ダルニー奨学金に寄せる思い～

細川 俊彦 様

私は、去る平成30年11月9日に神田一橋の学士会館で開催された民際センターの「感謝の会」において、ダルニー奨学金の長年にわたるドナーとして表彰を受けた6名の受賞者のひとりです。

民際センター発足から間もない1989年頃、毎日新聞の片隅に、タイ王国の北東部の貧しい農村地帯に住む子どもたちに、中学進学への学資を提供している、志の高いこの団体のことが報道されました。かねて人が生きていく一番の拠り所として、また社会の発展と安寧の基盤として、最も大切なものは教育であると信じてきた私は、秋尾晃正氏の活動を知り、深い共感を覚えました。タイと日本との物価水準の差異により、わずか1万円で、1年間、中学校で勉学生活を送ることができ、3万円もあれば、ひとりの小学生に中学卒業までの教育の機会を与えることができるとは、なんと素晴らしいことではないか。家庭の事情で大阪での職業生活に終止符を打ち、富山市へ転居し、ようやく生活も軌道に乗り始めた1990年にドナーとなつたのです。

奨学生を民際センターに送ると、まもなく奨学生の写真とともに、家庭環境や将来の進路希望を記した書類が送られてきます。親の職業は農業が殆どで、兄弟姉妹の数は3～4人と多く、また学校までは一般に遠く、何キロも歩いて通学していると、私の中学生時代よりも少し前の、終戦前後の日本の社会状況を彷彿とさせるのです。将来の進路希望として、男子は公務員、警察官、女子は看護師や



壇上でお話される細川様

教師が散見されます。男子にはキックボクサーになりたいという子も何人かおり、お国柄だと感じ入ったこともありましたが、果たしてスター選手になったのでしょうか。

奨学生は、中学卒業とともにに入れ替わりますが、私の場合、例年、決まった金額を民際センターに送金するだけで、奨学生の割り当ては、全て「民際センター」一任という形にお願いしてきました。いつしか28～9年間にも及んでいることで、この度、図らずも表彰を頂き、また会議終了後の懇親会に参加する機会に浴しました。

100名を超える方が参加した懇親会は、初対面の方ばかりでしたが、楽しい歓談のひと時でした。奨学生との面談のため、はるばるタイの現地まで赴き、親交を結んでおられるドナー、歴代の奨学生的写真を整理したアルバムを披露されたドナーもおられました。専ら資金提供という形でしか関わできなかつた私ですが、ドナーと奨学生との関わり方には様々な態様があつても良いと思っています。

懇親会で、かつての奨学生が、教師、看護師、警察官などとして活躍している姿が上映されました。奨学生が社会に出て、公共性の高い仕事に携わっている姿をみると、老いてもドナーを継続しようと思欲が湧いてくるのを覚えます。

当初、対象国はタイだけであったのが、近隣諸国まで拡大し、5か国にもなったのはこの上ない喜びです。民際センターの益々の発展を心から願っております。

国を越えて、次の世代への思いを込めて

H.I.様

感謝の会では、様々な人とお話しすることができ、自分ができることをしているがそんなに永くかかわっているのかしら…という感慨がありました。このような機会にタイの公使の方のお話も聞けたことも貴重な経験です。他でも支援をしていますが、区切りの年に記念行事をすることは価値のあることだと思います。戦時中に中国で生まれ、戦後、帰国し苦労もしましたが、教育を受け、仕事に就く事も出来たことに感謝しています。中国残留孤児になっていたかもしれない自分の事を思い出すと、経済的に恵まれないために教育を受ける機会のない子どもたちの事を憂い、私も何か役に立ちたい、そして、民際センターの人と人のレベルでの支援という理念に共感し今まで続けてきました。そして、事務局の方へ。これからも、できる限り永く支援したいと思っていますので頑張って下さい。



会冒頭の元奨学生からのビデオメッセージ上映

共に支援をした年月を経て

山本 裕子 様

感謝の会に参加して、動画、講演等がわかりやすくまとめられ、民際センターの歩みと今が改めて良く解りました。支援を始めたころ、当然ながら今より若かったのですが、参加された皆さまも同じことを思っていらっしゃるようで、改めて32年と言う歴史の重みを感じました。タイに家族の仕事で住んでいた当時、現地の方々にとてもお世話になり、恩返しをしたいと思っていた矢先、朝日新聞の記事が目に留まり支援を始めました。その後は、民際センターの方と一緒に娘と奨学生の暮らすイサーク村を訪れ、決して裕福ではない、泊めて頂いた家の方が、帰りに食べ物を持たせて下さった優しい気持ちが今でも忘れられません。また、日本とタイの事務所でタイ語ボランティアとして協力し、子どもたちの想いに触れることができました。今は、イサークと一緒に訪れた娘も大きくなり、途上国の農業に関する仕事に就きました。支援を行ってきたことが彼女の人生にも影響を与えていると思うと感慨深く思います。

感謝の会を総括して「地球益と喜捨の心」

理事長 秋尾 晃正

何故、これほど多くの方々がダルニー奨学金を長年続けてくださったのだろうか？

寄付してくださる方々の思いは百人百様だと思いますが、一様に共通点があるかと思います。

ダルニー奨学金は、経済的に恵まれない生徒への支援だが、それは行為・現象であり、それだけで全てを説明できません。

民際の「民」の使命

民の自発的に行うボランティア活動は決して行政の補完や補填の活動ではなく、行政ではできない魅力ある社会の形成に向けた活動を企画・実施することにあると思います。

行政の公的活動は税金、市民団体の公的活動は寄付。税金は制度によって徴収され、寄付とは自発的な行為です。何故、これほどの多くの方が長年寄付し、32年に渡って活動が続けられたのでしょうか？

民際の「際」の使命

国と国、民族と民族、宗教と宗教の間には「際」(境目)があり、言い換えればそこには概念として「間」が存在します。その「間」を大きく捉えれば、地球を考え、地球益に繋がると思います。地球益を訴求すれば、世界の共存共栄を目指し、自助、共助、公助の順で魅力ある豊かな地球社会の形成が可能だと思います。

私たちのダルニー奨学金は、地球益の観点から自発的に公益活動をしているのではないでしょうか。生徒たちの自助があり、村や学校の共助があり、私たちの自発的な寄付、公助があり、ダルニー奨学金が維持継続できたと思います。

喜捨の心

民の公益活動の精神、地球益を訴求する方々が、自発的に「喜捨の心」をもって、行動をしたのではないでしょうか。何かそれが、共通点かと思います。

歴史を振り返り、これからの中際

32年の歴史の中で、22年間は任意団体、2009年に一般財団、5年後の2014年に公益財団になりました。財団の役員は評議員会と理事会によって構成されています。これからの中際は長年一緒に活動を共にしてきた喜捨の心をもつた方々によって、維持継続出来ればと思う次第です。よって、ここに広く皆様に呼びかけ、評議員候補と理事候補を募集いたしたいと思います。評議員会は理事会を監督する立場にありますので、大局的な観点から判断できる方、そして理事会の本来の姿は議員内閣的機関が望まれており、徐々にその方向を目指しておりますが、今回はWeb-Marketingに長けた方を希望しております。自薦他薦歓迎です。どうぞ名乗りを上げてください。

MS&ADインシュアランス グループ 第24回 バレンタイン・チャリティーコンサート開催 ～累計支援金額が1,900万円を突破～

MS&ADホールディングス
三井住友海上

浜 一 平

去る2019年2月15日、三井住友海上駿河台ビル大ホールにおいて、「MS&AD軽音楽部」と「MS&ADゆにぞんスマイルクラブ(有志社員による社会貢献団体)」の共催による「バレンタイン・チャリティーコンサート」を開催いたしました。

1996年に始まりましたこのコンサートも、早いもので第24回を数えるに至りました。このコンサートでは、チケットの売上金に、国内外のグループ各社の役職員から寄せられた募金も上乗せし、その全額をダルニー奨学金として寄附させていただいております。



今回のコンサートにおきましても、多くの皆さまにご来場・ご支援をいただき、138万円を寄付することができました。この寄付金により、新たに29名の子どもたちに奨学金を贈呈できる運びとなり、累計支援人数は566名、累計寄付金額は1,966万円となりました。ご来場・ご支援いただきましたすべての皆さんに、改めて感謝申し上げます。

今回のコンサートには、当社グループ

各社の社員を中心に構成される3組のバンド(総勢22名)が出演し、様々なジャンルの楽曲を演奏いたしました。また、当社グループのチアリーディングチーム「ドルフィンズ」や三井住友海上管弦楽団とのコラボレーションも実現し、会場を一層盛り上げました。おかげさまで、当日は200名を超えるお客様にご来場いただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。

当社グループでは、SDGs(持続可能な開発目標)につながる取組みを、グループを挙げて様々な形で展開しており、このコンサートもSDGsが掲げる4番目のゴール「質の高い教育をみんなに」につながる取組みの1つとして位置付けております。大好きな音楽を多くの皆さんと一緒に楽しみながら、未来ある子どもたちの支援に貢献できることに、メンバー一同、喜びと誇りを感じております。

来年は25周年を迎えます。さらなる飛躍に向けて、より多くの皆さまのご来場・ご支援を心からお待ちしております。

以上



2018.11.18 地球市民どんたくに福岡ダルニー連絡会が参加



天秤棒でのバランスが難しく、思わずこぼれる笑顔

私達、福岡ダルニー連絡会は2011年に発足し活動しています。当初は情報の共有や意見交換、交流の場として年3~4回ほどの交流会を設けておりました。グループとして何をしていこうかという模索の時期でした。そんなときラオスでソロバン教育を支援されている経験者がいたことから、ソロバンの不足している現状を知り、まず最初にラオスにソロバンを贈ろうという活動を行いました。2012年の事です。100台以上のソロバンが集まりラオスに届ける事ができました。私達としては大きな一歩を踏み出すことができたと思います。しかしながら物資の支援となると届ける方法が限られていて直接現地に携行するしかない状況がありました。たまたま現地に訪問される方がいて、友人である会員さんも同行し届けることができました。

そんなときに福岡市が主催するボランティアの祭典－地球市民どんたくが開かれるということを知り参加することになりました。2014年から参加し今回5回目を迎えました。沢山の市民の皆様にダルニー奨学金を知っていただきたいと思い、現在は年に一度のこのイベントへの参加を活動の柱としております。今回は、イベント事務

水汲み体験で子どもたちの苦労を共有 販売利益を支援金として寄付

局の企画で、実行委員会ではSDGsについての見識を深めたり、さらにはツイッターやフェイスブックを使ったリアルタイムでの参加を促すような取り組みもされました。当日は、なかなかゴールできないところ、また、借り物競争、その他の企画がいろいろあり賑わいました。特に私達福岡ダルニー連絡会では手作りの天秤棒と、水量を調節するために10リットルの水タンクを2本と8リットルのバケツ2個を用意し、重さを確認しながら水汲み体験をしてもらうという企画で参加しました。水汲み体験では沢山の若い方々や子どもたちが、天秤棒でバランスをとつて歩くことの難しさと重みを感じ、子どもたちの苦労がわかると口々に、良い体験をしたと感想を持たれていたのが印象的でした。ブースではみかん販売と、今年は民際センターのカレンダーを販売し、中村学園高等学校、インタークト部の皆様が学園祭（水仙祭）で集めてくださった寄付とあわせ、総額13,400円の収益を支援金に充てることができました。生徒のみなさんはお忙しい中、毎年掲示物やポスターなども手作りして福岡ダルニー連絡会に協力してくださっていることに改めて深く感謝申し上げたいと思います。私達福岡ダルニー連絡会は今後も微力ながら福岡における活動を続けて行きたいと思っております。

福岡ダルニー連絡会



ブースは熱心に話を聞かれる方、みかんを買ってくださる方で賑わいました

ラオスのダルニー奨学生紹介

民際センターは、1997年にラオスで奨学金事業を開始しました。当時は支援対象を小学生としていましたが、現在は中学生の支援に移行しています。今年5月に、ダルニー奨学金の支援を受けていた小学生全員が卒業しました。在学当時の小学生の声をお届けします。

「勉強を続けて、豊かな生活を送りたい」

ラオス・セコン県の僻地にあるピアマイ村に、小学校5年生のモンチャン・ソンパン君（11歳・男子）は、両親と12人兄弟の計14人で暮らしています。両親は日雇いで農業の仕事をしていますが、一日働いても日本円にして385円の収入しか得ることができず、家族の生活は大変です。

両親が日雇いの仕事で家を空けることが多いため、放課後や休みの日などを使って、子どもたちは、農作業、薪狩り、食料となる動物を捕まえるなどの手伝いをしています。それは、嵐の日でもしなければなりません。幼くて外での手伝いができない子どもは、家で自分より年下の兄弟の面倒を見ています。モンチャンが一番年上で、彼より小さい幼児ともいえる下の兄弟が、赤ん坊の面倒をみなければなりません。

彼は、今の貧しい生活から抜け出したいと願っています。

そのために、現在の貧しい生活を少しでも豊かなものにしたいと考えています。

モンチャンは、次のように言います。

「小学校を卒業したら、中学校に行って勉強を続けたいです。奨学金の支援があれば、中学校卒業まで勉強を続けることができます。勉強を続けることによって、今の生活をよくしたいです。勉強を続けて、教師になりたいです。そのためにも、まず奨学金をもらって、中学校を卒業したいです。」

小学校卒業後に中学校に進みたいと考える子どもがたくさんいます。ぜひあなたの支援をお願いします。

ラオス・カンボジア・ベトナム奨学金の締め切りは、7月20日です。



事務局活用リスト

事務局では様々な資料やサービスを用意して支援者の皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。
※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡ください。

民際センターのボランティア活動がしたい

翻訳、P C入力、D T P、ホームページ作成、事務作業などのボランティア活動を希望する方を募集しています。電話またはメールでお問い合わせ下さい。

遺贈に関する話が聞きたい

民際センターでは、遺贈（遺産・相続）による寄付を受け付けています。皆様のご遺産や相続による財産をお預かりし、未来を担う子どもたちへの教育普及支援事業に活かすためです。お気軽にお問い合わせください。専門委員とともに待ちしています。ホームページよりのお問合せも可能です。

奨学金の説明を聞きたい

お電話またはメールにてお問い合わせください。ご説明させていただきます。

毎年忘れずに送金したい

民際センターホームページよりクレジットカードによる寄付にて自動継続による引き落としをご選択ください。（すでにご支援をされている方で、途中から自動引き落としにすることも可能です。お問い合わせください。）

タイの奨学生と文通したい

- ①手紙の翻訳
- ②タイ切手の購入

- ①日本語⇒英語に翻訳します。手紙の原本と返送用の82円切手一枚を同封してください。メールでも受け付けています。
- ②タイ切手セット（12回分1,000円）の代金は郵便定額小為替か現金書留でお願い致します。82円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。

民際センターの運動に参加したい

- ①書き損じはがきの収集
- ②インターネットチャリティーへの参加

ホームページでご案内しています。また、電話またはメールでもご説明致しておりますので、お気軽にお問合せください。

お知らせ

～書き損じはがきで支援ができます！～

年賀はがきを購入したけれども使用しなかった、印刷を間違ってしまった等、未使用のはがきで子どもの支援ができます。詳しくは、お電話またはメールにてお問い合わせください。ホームページでもご案内しています。

編集後記

先日、20年以上前に民際センターに勤めていらしたという元職員の方が、日本橋の事務所にお越しになりました。現在、支援者でもあるその方は、ご親戚の方が残されたという切手をご寄付下さり、お茶菓子まで頂戴しました。民際センターも今年32年目。多くの方々に支えられてきました。職員として、これからも支えて頂けるような団体の姿を模索し、末永く子どもたちに届けられる様、頑張ります。（山）



公益財団法人
民際センター

ダルニー通信84号 2019年6月1日発行 発行人：秋尾晃正
公益財団法人 民際センター 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7F
TEL:03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783
Eメール: info@minsai.org ホームページ: www.minsai.org
f www.facebook.com/minsai.org t twitter.com/minsaiorg i www.instagram.com/edf_japan/
ゆうちょ銀行振替口座: 00160-7-664928